

---

# 青空を追う小鳥。

紅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青空を追う小鳥。

### 【Nコード】

N1301BA

### 【作者名】

紅

### 【あらすじ】

人生始めての初恋の相手は学校でも人気の高い緋翠お姉様、女の子に恋をしてしまい、その上学校トップのお姉様

遥華はどうすればいいかわからず、途方に暮れる日々。

そんなとき思い出したのがあの夏の日の出来事……。

「始まりの処」プロローグ

あの夏の日、私は恋という罪にはまってしまった

ザワザワザワザワ・・・

「ハルー！一緒にご飯食べに行こうよ」

4時間目の終わりチャイムが鳴り終わった瞬間、色の無い、静かな教室が綺麗な薔薇色に染まるように声が広がった。

そんな頃、タイミングを見計らったように後ろのほうから大きな声が響い

彼女は同級生の沙苗さなえだりつ代律

彼女とは小学校から高校までずっと一緒の学校・・・  
と、言っても私の学校は小学校から大学までエスカレート式のお嬢  
様学校だから転校や留学が無い限り必然的にそうなる。

小中高と共に同じ時間を長く過ごしてきた律は私の親友。

一週間のうち一緒にいない時間のほうが少ない私たちは学校内でも  
恋人じゃないのか、と噂になるぐらい大の仲良しさんだ。

そう、そんな私は「雪城遥華」（ゆきじろはるか）

普通の家庭に産まれたがお母さんが普通だったこの、聖マリア女学  
院に通わせてもらってる。

周りがどっかの社長の子供やら、大富豪の娘さんやとにかく格式の  
高い子ばかりで肩身が狭い、そんな私となんの差別なく仲良くして  
くれたのが今お昼に誘ってきてくれた律なのだ。

「いいよ、あ、そうだ！今日のお昼はいつもと違うのところであべ  
たい？」

「違うのところ？別にいいけど・・・いったいどこなの？」

「ふふ、まだ内緒！ついてきて！」

このたった一言で私の高校生活、いや人生が変わってしまうなんて、  
まだ私も、きつと彼女も誰も知らない。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1301ba/>

---

青空を追う小鳥。

2012年1月3日04時54分発行